

ずちゅ

ずちゅ

「くお…お…  
これが皇女ま●こ  
気持ち良すぎ…ッ」

「びびーんッ!!」

「どうだ俺のち●ぽは?  
堪らねえだろアルフィン♡」

「や…やッ  
んんッ!!」

「膣<sup>なか</sup>内<sup>だ</sup>にたっぷり射精<sup>だ</sup>してやるから  
俺様の子ちゃんと孕めよ♡」

「っ!!」

んん

びび

ずちゅ

ずちゅ

ずちゅ

「いやッ嫌あああッ!  
エリゼ!エリゼ助けてッ!!」

「エリゼちゃん  
いき疲れてお休み中なのに  
無茶言い過ぎだろ(笑)」

「嫌ッいやッ!  
膣内なかは…膣内なかだけは…ッ」

「はあ?俺様の種付けだぞ!  
ありがとうございますじゃねのか!!  
皇女なのに礼儀も知らねえのかッ!!」

「ひいッッー!」

「ぐッ…やべ…も…う無理…っ  
いくぞいくぞ!アルフィンッ!  
皇女ま●こ種付けで孕めえええッ!!」

「いやああああッ!!」

びゅ

びゅ

びゅ

びゅ

ド  
ク  
ッ

「お…お…孕め…孕めッ  
初物ま●こ…孕め…ッ」

「ひっ…う」

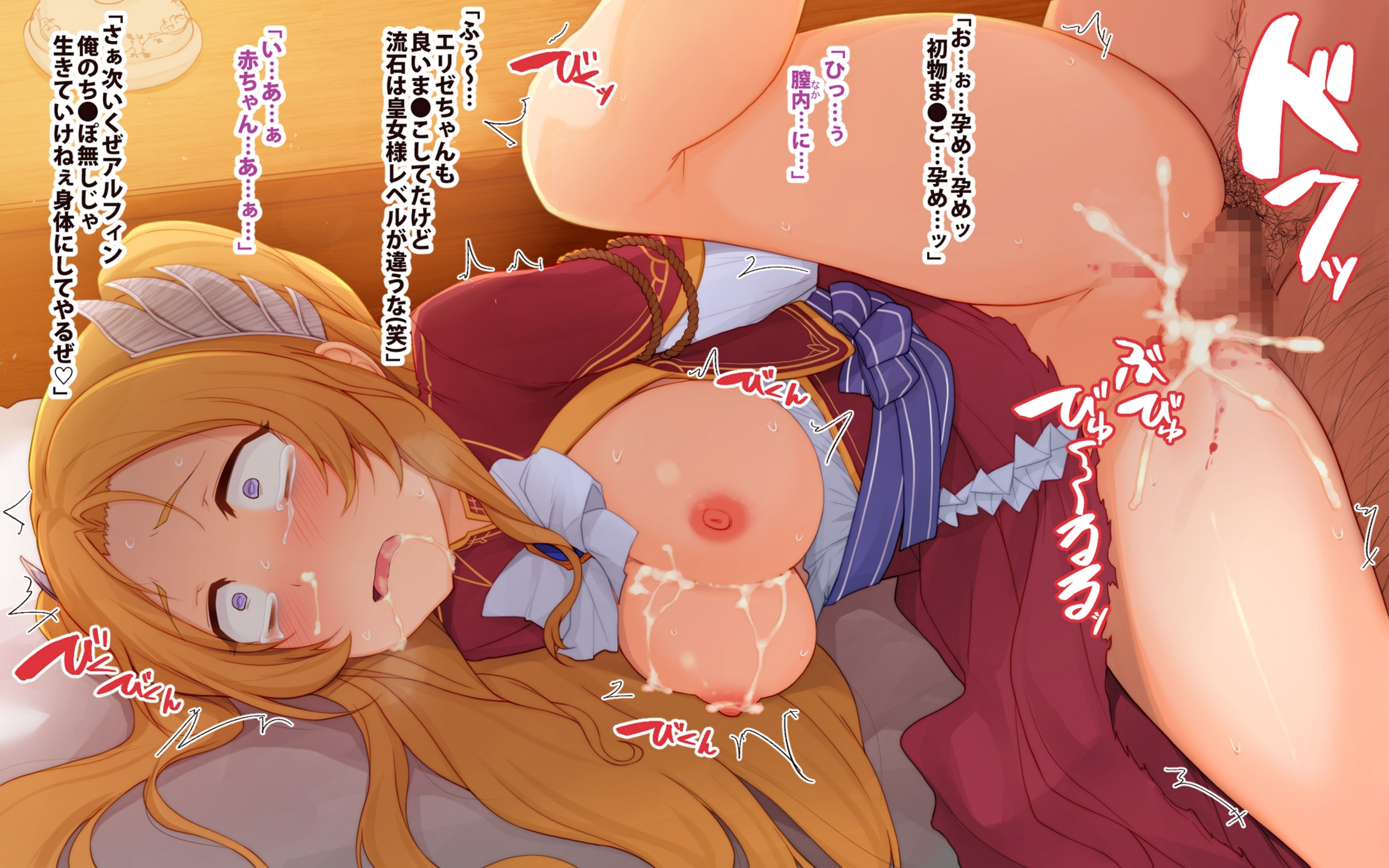
「なか膣内…に…」

「ふう…」

「エリゼちゃんも  
良いま●こしてたけど  
流石は皇女様レベルが違うな(笑)」

「い…あ…あ  
赤ちゃん…あ…あ…」

「さあ次いくぜアルフィン  
俺のち●ぽ無しじゃ  
生きていけねえ身体にしてやるぜ」



「数か月後」

「ふいふ…イイぞイイぞ…」

「ふわぁ〜ごひゅじん様ぁ〜…  
子種ほひいです…♡」

「おま●ご奥にびゅーって…  
おねがいひまふ…♡」

「おま●ごにッ！」

「はやくおま●ごにち●ぽッ！」

「ち●ぽくだひゃい♡  
この太いので奥ぐりゅぐりゅ♡  
ぐりゅぐりゅっでしてくだふあい♡」

「ははそっ急かすな

「いつも通り意識飛ばまでハメてやるよ♡」









